

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

| | |
|-------|--|
| 事業所番号 | 4171200308 |
| 法人名 | 有限会社 クオーレ |
| 事業所名 | グループホーム クオーレ基山 |
| 所在地 | 佐賀県三養基郡基山町大字宮浦885-6 (電話) 0942-81-7455 |

| | | | |
|-------|------------|-------|-----------|
| 評価機関名 | 佐賀県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 佐賀市鬼丸町7-18 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年3月30日 | 評価確定日 | 平成21年7月3日 |

【情報提供票より】(平成21年 3月20日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|--------|---------------------------|
| 開設年月日 | 平成 18 年 2 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 9 人 | 常勤 | 3 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 7.9 人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|--------|
| 建物構造 | 木造平屋建て |
|------|--------|

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|----------|----------------|---------|-------|
| 家賃(平均月額) | 24,990 円 | その他の経費(月額) | 無 | |
| 敷金 | 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | | |
| 食材料費 | 朝食 | 300 円 | 昼食 | 400 円 |
| | 夕食 | 500 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | | 1,200 円 | |

(4) 利用者の概要(3月 20日現在)

| | | | | | | |
|-------|-----|------|-----|------|-----|------|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 | 1 名 | 女性 | 8 名 | |
| 要介護1 | 3 名 | 要介護2 | 3 名 | | | |
| 要介護3 | 1 名 | 要介護4 | 1 名 | | | |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 名 | | | |
| 年齢 | 平均 | 86 歳 | 最低 | 79 歳 | 最高 | 92 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------------------------|
| 協力医療機関名 | 鹿毛病院・聖和記念病院・高尾病院・井出内科・原歯科 |
|---------|---------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

家庭的な雰囲気、一人ひとりのその人らしい、のんびりと楽しく居心地よい生活の支援を理念として取り組んでいる事業所である。職員一人一人がこれまでの経験を活かし、認知症高齢者の地域生活を支えているホームである。地域との連携も積極的に行い、「子ども110番」なども引き受けている。また、地域にあるグループホームとの連携や社会福祉施設との相互交流なども活発に行っている。利用者の生きがいや生活意欲を高めるための努力として、月1回のバスハイクや誕生日会、母の日などの行事の実施やホーム内で季節を感じることでできるよう様々な取り組みがなされている。また、利用者の健康維持に対して、2週間に1度の地域の医療機関と連携した訪問診療にも取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 地域密着型サービスを果たす役割を理念づくりや自己評価、外部評価結果に対する改善の取り組みと市町との連携、ご近所や地域との連携等に積極的に取り組んでいる。また、改善事項については改善計画書を作成し、職員全員で記入するなど、改善に向けた努力が窺える。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 評価結果を参考に、職員会議等で検討会や研修などを行い、サービスの質の向上につなげている。今回の外部評価に際しては、職員全員で検討し、意見交換を行い、自己点検にのぞんでいる。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 運営推進会議は10名のメンバー構成で開催されている。地主さんもメンバーとして参加し、グループホームのよき支援者となっている。地域包括支援センターに参加を呼びかけているが、参加が得られていない。今後も継続して参加を促す努力に期待したい。また、協力医療機関で訪問診療を担当する医師も参加したいとのことであり、運営推進会議の更なる充実を期待したい。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 家族会等で意見交換を行っており、運営もスムーズに行われている。意見・苦情・不満等の意見箱も玄関に設置されており、出された意見は、家族会や職員会議で検討している。家族会は年に3回実施しており、ホーム便りも3ヶ月に一度作成し、家族へ郵送している。行事などへも家族に対して積極的に呼びかけるように努力していることもあり、家族の参加状況はよい。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 隣近所より野菜や漬物などをいただいたり、折り紙のボランティアなどの訪問もあり、ボランティアからは、私たちが入居者から学ぶことが多いとの意見があり、利用者も生きがい活動の一つとなっている。今後とも、地域との連携、ボランティアとの関わりにより、入居者が生きがいのある生活ができるような働きかけを期待したい。 |

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 一人ひとりを大切に健康で、家庭の生活を支え、近所や地域とのつきあいを大切にしている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 毎日の申し送りや毎月2回の職員会議やミニカンファレンスにおいて、ホームの運営理念を読み上げ、理念の共有と、理念の具体化について意義付けしている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 隣近所より野菜や漬物などをいただいたり、折り紙のボランティアなどの訪問もあり、ボランティアからは、私たちが入居者から学ぶことが多いとの意見があり、入居者の生きがい活動の一つとなっている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前回の評価結果を参考に、職員会議等で検討会や研修などを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議はメンバー10名の積極的な参加により開催されている。地域包括支援センターからの参加も呼びかけているところである。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 地域包括センターや基山町介護保険課等には、3ヶ月に一度ホーム便りを届けるなどして関係づくりを行っている。介護安心相談員2名の訪問も時々ある。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 家族会を年に3回実施している。また、ホーム便りも3ヶ月に一度作成し、家族へ郵送している。行事などへも家族に対して積極的に呼びかけるように努力していることもあり、家族の参加状況はよい。病院への受診の際も家族に連絡を取り、協力して実施している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会等で意見交換を行っており、運営もスムーズに行われている。意見・苦情・不満等の意見箱も玄関に設置されており、出された意見は、家族会や職員会議で検討している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の離職については、できるだけ避けるように努力がなされ、現在までの離職者はいない。やむを得ない場合については、利用者にはダメージを与えないように配慮されている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 地域にあるグループホーム協議会の主催する研修会には必ず参加するようにしている。また、これ以外の外部の研修会にも積極的に参加している。研修についての報告も職員会議等で実施している。事業所内でも月1回テーマを設定し、研修会を行っている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域にあるグループホーム協議会の主催する研修会の折などに、他のグループホームの職員との意見交換も行っている。また、地域にある福祉施設との交流会なども行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居前に見学に来ていただき、ホームの雰囲気や環境を理解したうえで、本人と家族の了解のもとに入居へつなげている。体験入居も可能である。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 調理の手伝いや洗濯物干し・畳みなど、利用者の協力を得て行われている。本人の生活リズムを大切にして、ご本人のしたいことをしていただくように時間にゆとりを持たせ、支援している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人主体を第一にしている。自由な時間の設置やバリエーションなどの新しいケアの考え方などを取り入れ、利用者の思いや意向を大切にしている。やりたいこと、したいことを把握し、希望に近づけるよう努力している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人や家族の意向を基にケアプランを作成している。介護支援専門員、ユニット長、家族、職員の情報交換も密に行い、職員会議等でも話し合うように努めている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 3ヶ月に1度ケアプランの見直しを行っている。評価とモニタリング、アセスメントについての記録もしっかり残されている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|----|---|--|------|--|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | その時々状況に応じて、関連福祉サービス、医療サービスに柔軟に対応している。受診が必要な場合も、看護師や家族と連携し、医師に相談をして対応を行っている。本人や家族の要望に対しても柔軟に対応している。 | ○ | 2週間に1度、協力医療機関による訪問診療を実施している。訪問診療担当医師には家族会や運営推進会議へ自ら積極的に参加する意向があり、ホームにとっては強い味方である。今後のこの取り組みを通して、利用者の健康を守り、職員と家族との更なる連携、医療と福祉の融合・連携に期待したい。 |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族が希望するかかりつけの医療機関の受診も可能である。また、2週間に1回、協力医療機関の訪問診療を行っており、入居者もそれを利用している。今後担当医師も、家族会に参加してご家族とも連携を取りたいという意向がある。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化、看取りのための指針を作成している。入居時に、この点について説明を行い、同意を受けている。かかりつけ医、訪問看護ステーション、看護師との連携をとって実施している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 個人情報に関する書類等は、目の届かない場所に保管されており、鍵をかけられるようになっている。入居者との関わりとしては、常に入居者と同じ目線に立ち対応している。ホームとして、職員に対して個人情報保護の意識を高める意味で守秘義務の心得に印鑑をもらうなどして徹底している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者主体を第一にしている。自由な時間の設置やバリデーションなどの新しいケアの考え方などを取り入れ、入居者の思いや意向を大切にしている。やりたいこと、したいことを把握し、希望に近づけるよう努力している。職員中心のケアにならないよう注意して業務を行い、勤務体制も考えている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備や後片付けなどは職員と利用者が協力して実施している。職員も同じ食事を入居者と一緒に取り組んでいる。職員も同じ食事を入居者と一緒に取り組んでいる。半年ごとに嗜好調査を行い利用者の食べたいものを提供できるように努力している。誕生日会の行事などはお弁当を持参したり、外食なども楽しんでいる。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴の時間については、本人の希望にあわせるようにしている。現在は希望はないが、毎日入浴することや夜間入浴などの対応もできるよう努力している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 本人のできることは少しでもしていただくよう努力している。月1回のバスハイクなども行い1日1日が少しでも楽しく過ごすことができるよう配慮している。誕生日には、職員、利用者、家族が参加して誕生会を行い、職員お手製のプレゼントなども提供している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 本人の希望があるときは、いつでも散歩、買い物に出かけられるようにしている。天気のよいときには、外でのレクリエーションや食事なども行っている。月1回のバスハイクなども行い外出する機会を作っている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 職員の見守りを徹底することにより、日中はできる限り、鍵をかけないようにしている。出入り自由な環境を整え、何かあれば自然に声をかけることによって事故を未然に防止するようにしている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 1年に1回、夜間と昼間の避難訓練を実施している。マニュアルを作成し、緊急時には、地域の人々に協力していただく体制が作られている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 定期健康診断の結果を基に、健康管理には十分の注意をはらっている。看護師とも連携をし、一人一人食事量、水分量もチェックし記録している。水分補給は1日5回定期的に行うよう努めている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングには、利用者と作製した季節ごとの作品を飾っている。お風呂は季節によりゆず湯やバラ湯にしたり、ご飯もおはぎや栗ご飯、ピースご飯など、季節を感じられるように努力している。ホーム周辺には田畑が多く、外の景色に季節を感じることができる。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家具やテーブルなど家庭で使い慣れたものを持ち込んでいただくように家族への協力をお願いしている。実際に椅子や家具、写真立てや鉢植えなどを持ち込まれている。 | | |